KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
LICENSED PRODUCT
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

ル 4
1178
1

1178
ハ

小品藥樹

藥上今球著

藥之下巻

門 嵯
雅 1178
巻 1-2

洗心山人著

謡梓記談

樂山吟社蔵

宮城縣図書館

題言

此冊子ハ大概國誌ヨリ抜萃シタルモノニテ議論
モナキモアレトモ見ヤスキヤウニトテ
ラ無駄ナキ繁雑ノ説附会ノ説モ多カラヌ
況ヤ地名村名ナドハモトヨリ邦俗風土ノ自然ヨリ
ナレハセル言ナレハ詳ニシテ潔ク知ル人ニハ余カ
鄙見ヨリ自ヒ美ナルヲ捃拾シ畫ヲ畫ケルノツヒ
ニシテ人ヒトノ心ヤ目ヲ悅ハシムルヤウニ
サマ〳〵ニ見ルヲモトメテ書ハ記シ置ルモノニ

屋しされば異國すて他邦の言を譯せるを直翻義
翻假翻なとなりの言あるかゝしまして我ら
皇國ハ異邦のみなを好るとりてとりひきる能
るもの也こゝ字解も一定なる能ハ久米の姓ら古
ハ大和目ら云ら能武人の目をもてものを視るまゝと
もるゝなるを猛勇の貌を目しを和目ら云ひし
す後久目ら云ひさら久米ら云ふらかく古今言語の
殆絶せるものなり且此著ハ霧務の灯下潤筆まるを
もて嗚呼の失ハさらなり也詞弁課誤最もあな

ゝうさ新なる屋しし

文政九年為戌春如月

洗山人自述

[illegible]述るごとく拾弔一時の筆記なるをもて時代の
失るもあるべし脱誤もまぬかれがたくぶるもまた世に
記載の洩れて主僧の口碑に存せるもの多し年中金河の戦争ありしこと
大窪氏の系譜ふえ又多氏の系ふ作者家の系の
紋あせるあるもまた一枚筆をとどめ今彼此の
説を存して識者の鑒裁を待

漫遊紀譚前篇乾

洗心山人黒崎貞孝至純撰

常陸國上古八海水逆流して遷移常なりしふ
後来漸く潮退き人民多く住地を得て居を安んず
此国常陸國と云
一説に日本武尊東夷を巡狩したまふとき國主毘那
良珠命新に井を堀りて泉きよくして清冷なり
セハ是を賀美し御袖を漬しまつるに衣を漬國と
いひしと上略しかるのち云筑波山黒雲掛衣

袖漬國ナトゝなり
又常陸と永久言葉の言陸と後の言葉とをもて是國
経歴日久しくいふ陸後の言葉なるを見るとゝ
又江海陸地一續直後とも之り又于立國陸とも之國
ひとつの國成ハ郡とこゝろなる云以上皆常陸の國名国て
来ることゝ常陸を地高遠すゝ先
日と見れ出ゝ日高見国と云説有り拾二日本武尊
上総より轉りて陸奥國ニ入ルト云ゝ蝦夷ノ賊首宮澤神
國津神茅竹ノ水門ニ屯スト云ゝ取都ゝ多賀神社あり

行方郡多珂郡社茅竹水門ハ今行方ノ知名ゝ常陸ノ北ノ高島ノ今茅根トシ竹島ノ奇高島ヨリ北ニ多珂郡ヨリ北地ニ高ヶ浦ヨリ名ゝ

又蝦夷既ニ平ラキ日高見國ヨリ還りて西南ノ方陸奥陸ヲ
ト云ゝ陸奥國拙生郡ゝ今これゝ國ゝ見れ此ハ日高見國ゝ高
遠ゝ地と総称せれすて一處の称ゝあゝざるゝ新屋
又東西の國と為日經又朝日之直刺國又青香具山者
日経の大市門ナト古ゝ之なゝ新ゝ葉とあれハ日高
見國ゝ称せるゝ必しゝ常陸國而已なゝ今の
為陸ゝ必東の國と総称せれゝ覺ゆ奥州と陸
奥ゝ之ゝ常陸の奥ゝ之新言ゝ多珂郡
来國の地方ゝ道口ゝ之郷あり陸奥ゝ入口と云言

なる所なり　元正天皇養老年中の注常陸多珂郡を
割き石城菜多郡とし　て石背を屬せ　ら石背を
今の岩瀬郡　なり　白河郡の北に在り安積郡に
接連く會津に　隣り蓋し　石背を石城の西北に
石城と表面と　石背と背後と　記す
山陽曰影面山陰曰背面即今の山陰道山陽道なり
此等　国　意なる屬し
石城ハ磐城ハ妃三尾氏ハ磐城別之妹ト云又磐衡別
命ハ又石城別王ナト見ヘタリ別の字ある

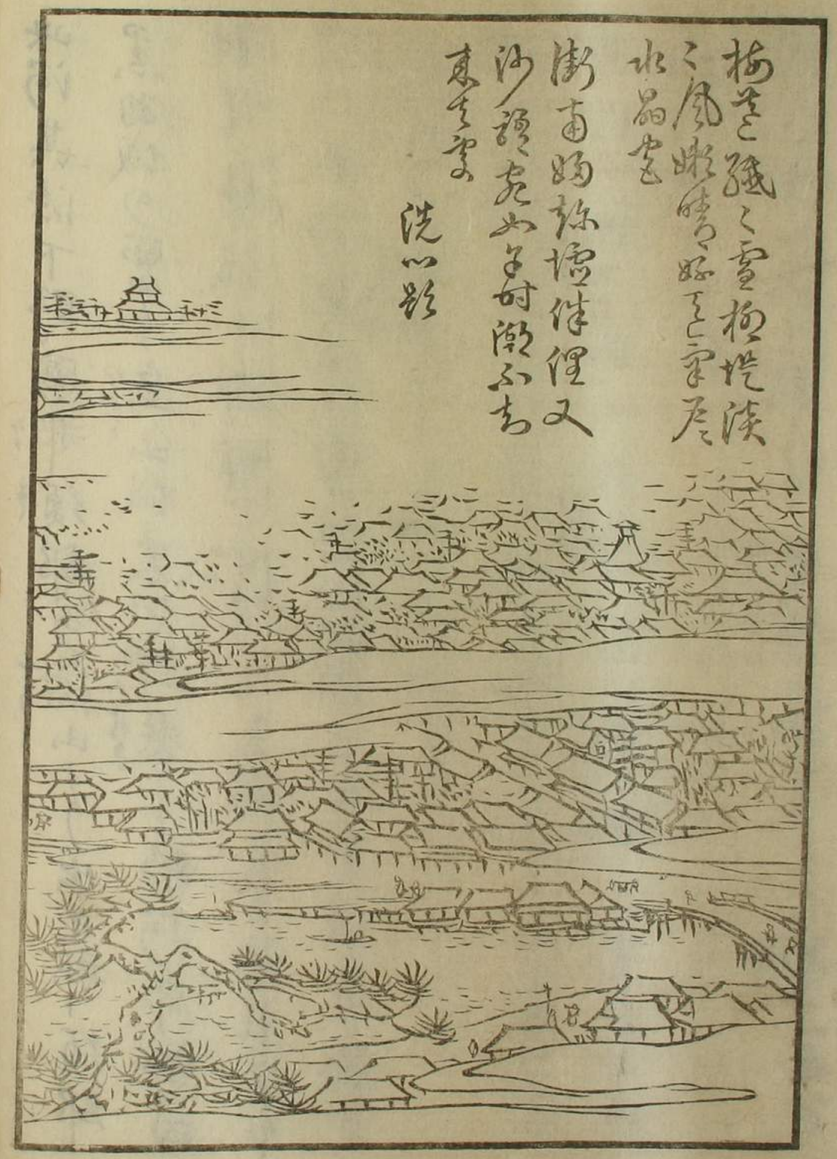
也　ち七十餘子皆封國郡各ゝ其國故當今時謂諸國ゝ別
者即其別王之苗裔ト以上舊記ヲ見て磐城の古名蹟
ヲ知る屬し
常陸國境界の較定ハ醍醐天皇延長年中の
須ハ　新治　真壁　筑波　河内　信太　茨城
行方　廣島　郡珂　久慈　多珂　以上十一郡を合
て称ス　後和天皇天長年中の須ハ上総常陸上野の
三箇國而已國守を称して大守と称ス是親王方ヲして
補任ス　凡東北諸國の鎮ス　也即ち東

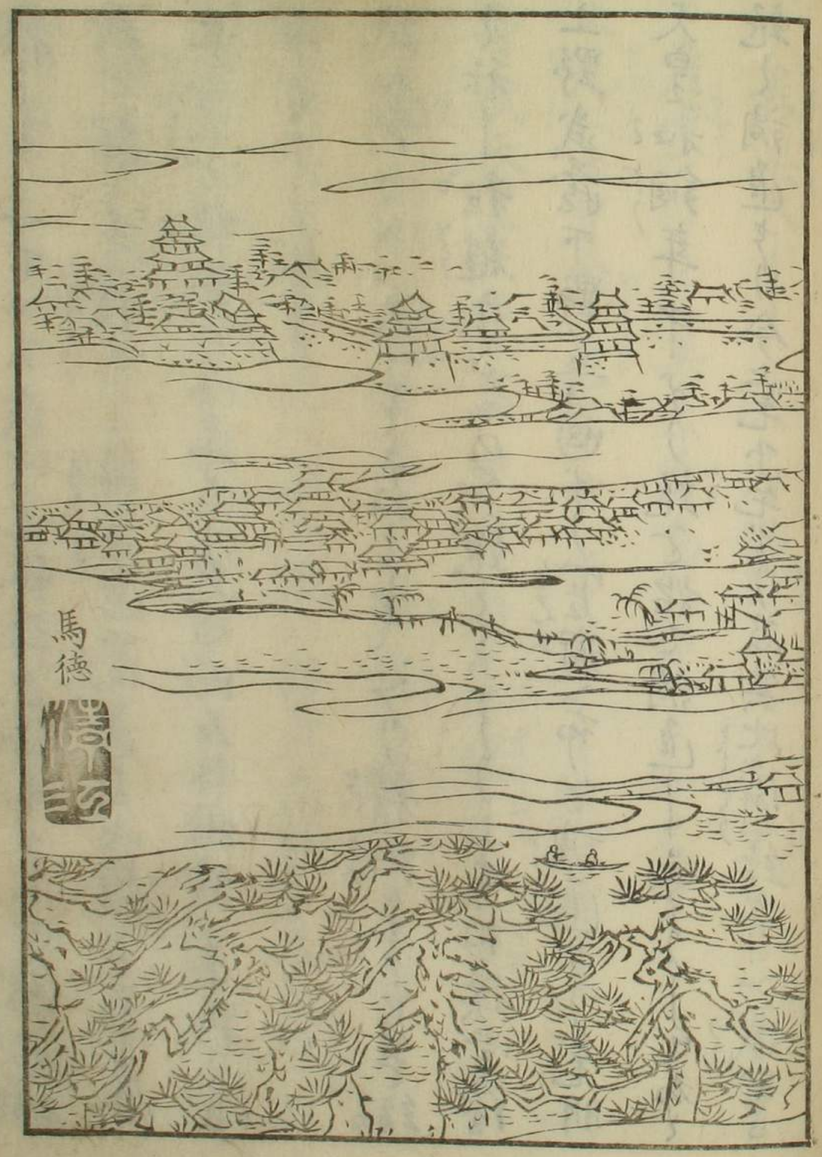
國を通ずる道なり茨城郡は常陸の中央にして古へより
國府なる郡なる地なり今の水府市城は茨城郡常石
郷にして天南の地なり常石郷は當時は那珂郡に
して那珂郡又仲郡なりしを即常陸國中央
にして國南なる廣き地形自然なるものなり甚
土水陸の商産物産の富腴にして山東の利を擅にする郡
なるを宜なる業
仙波湖市城の市要害第一にして西南の郡界を遶
り其源池堅邊より出て箕川等の地を廣き原山下を
過ぎ東流して川股村に入り那珂河に合して海に
入る是の湖中新に堤を築きうひく揚柳楓樹を
両行に植し所謂る西湖の堤堤にして廣し又湖
中遠を生せり開元の節景色美觀なり余嘗て
舟入芙蓉花裡去人從楊柳樹陰來ルト口號せり
茨城の称呼は上古土蜘蛛なるものありて常に穴居し狼
性梟情衆徒を相率て良民を劫し殺せり黒坂命
其出征をまちうけて茨棘を以て穴口を塞き騎兵を
以て殺戮し是より茨城の郡名の因て来れるとなり

なり上古土蜘蛛なぐ呼なもの多とあり今の世盗人を
どろぼうなと呼と同し昔時丹波山千丈と岳と極て
又ち鈴鹿山の鬼神なども其比世を恐しく云なる事
言葉なり後世くうてち鬼神なりしと覚めるもの
世に多し

那珂郡八仲郡と也云常陸の西に鬼怒川あり東ふ
久慈川あり中間に那珂川あり即常陸の中都を
東南に流れ水府御城の東北の郡を経歴し東
海に入る是那珂郡の称呼因く来る所なり

此河其源下野国那須郡の諸山より出て那須郡
黒羽城の西より烏山城東を経歴し那珂郡野田
村より東流し御城を廻りて東海に入る陸奥より
なり下野那須より常陸の北郡より也諸産物を
運漕せる水路なりて常陸国中の一大河なり
朝妻郷昔より古く呼来れり蓋し日本武尊
播磨と顧る処し吾嬬の言に因て称し来れるや
志賀屋のうた
土俗山茶を以て杖とし堅硬不折とく人あり此木を


洗心亭


馬德

杖ともせり上古日本武尊土蜘蛛を征したまふ時海石榴
樹を採りて椎とし猛卒を簡定め此椎をもて悉
其黨を誅戮したまふ海石榴樹杖ともなしき
ゆゑなり然り
絶和訓アシキヌ又うもきぬとも云ひ精細なるものを絁
と称し粗糙なるものを絶と云なり上古相模常陸
上野武蔵下野五ヶ國より官府へ布を調進せり元明
天皇和銅年中より絶を始て調進しまつりして布と
絶と調進せり今上毛下毛より及其比隣絁布を織出る

ゆゑ景莫大なりて其産物既に天下に甲たり上毛より
の産業なりて其来歴あるゆゑを知る所
又光仁天皇寶龜年中常陸より絶を調進し又
聖武天皇天平年中常陸より曝布を貢せり風土
記に那珂郡小曝井ありて村落の婦女集會しく
布をさらせりと見へたり今八幡の地なるを詳ふ
せざるなり今水府市城下を要より其近郷綿布
を織るゆゑ精細なりて其上品なるものハ絹帛ふひし
土俗目して前白と呼又綿布を黒深なりて黒機留と

称し其精妙奇品なり下野真岡より曝布を出ざ
せり最名産なり近時水府より也出せり又上品
なり蓋し下毛真岡は上古より西那珂郡に属せり
曝布を是昔の地にありしなり今尾張近江
水府より絹布を織出せり日を追て精妙なり野
州武毛郡の南冨山邑より絹を織出せり上品なり又
那珂郡下檜澤邑より絹太織類を織出せり皆其
産物土地の自然にして古より来産あるものなり
漆は上古より常陸産物にして最も上品なり今
那珂郡小瀬國長野口諸村など往々出ず其他久慈郡
多珂郡及諸郡漆木多し然れども採ることを
不熟にして只本を植る而已なり越前國の人
此漆を採ること妙にして今諸國に渡りて業と
年毎に常陸より来りて業とせるものあり此樹
諸木と殊にして一たび植れば代々絶ず信に繁茂
し益を有益のものなり能地あるべしを植て
永世子孫の後業を期せる産
常陸國より紙を漉出せるは上古より事なり今世

紙の種類数多ありと云へども西野田と称せらるる高
多一久慈郡大澤村原と最とも美なりしてこれ孫
下小川西金相川の諸村を更なり那珂郡舟子小田
野高部上檜澤下檜澤沢野澤上小瀬下小瀬那珂
門井野口大岩小舟小瀬沢吉丸太郷中井千田秋田
松野草國長野田長倉金井大畠等其他野州武
毛郡大内大那地谷川多郡田矢又岡組松野富山等の
諸村比屋皆紙を漉て業とせり常陸北郡の産物
最第一とす島子村薄井氏富豪にして紙を弾ぐ事

と業とす郷中小名あり其他此数村中紙を弾ぐ
子を常とせるを以最多し又久慈郡大田郷中
和久松平天下野高倉小生瀬大門國安蘆間東連
寺等の数村比屋紙を漉くことを業とせり其の産物
皆是其土の自然にして来歴あるなり此産郷中
今最手要にして最も先勢なり那珂郡に油郡あるこれ
那珂郡に昔阿波の郷と云ふ今の栗野まやまさ
阿波山上神社今大山村にあり此の社地より勾玉を出
せり此に比べ也地より玉も雨後なぐ拾ひ得るもの往

ありと云佐竹義敦の四男義孝大山と氏とせり蓋
此家ハ会邑せるなり数屋ハ粟野と大山とを比盖
せる地なり昔奇八一村なりしなるや
又磐船ハ神社あり今穴澤赤澤ハ隣り西北ハ
山奥ハ在り磐の臭船ハ数せるありと云
粟野村ハ住谷玄信と云醫生ありよく其業ハ委く
殊ハ産術ハ長せり
坏村又阿久津と云峨眉山人なるものあり守愚堂と
號せり書を能し國学ハ名あり今ハ世を去りぬ又
惰也屋し地誌の考ハあるとく哭り再考を屋し
飯富村ハ青山神社あり又大井神社もありと哭
り果して然りや否
那珂郡那珂村あり神道集ハ延文三年安居院圓碩の撰なり太神
宮ハ那賀郡古内山ハ天下りさて國中を見廻り
廣島郡の古宮と御在所ハ定むとあり古内山ハ古内
村なる屋し又三代實録ハ廣島造營の材木を採る
山を那珂郡ハ在とぞ又和名抄ハ那珂郡ハ廣島郷
ありと見ハ今ハ廣島郷ハ行方の地なり定なるハ

掬ヨ下檜澤村ヨ鹿角宮あり又上小淵下小淵ヨ
村ヨ鹿角宮あり又長倉村ヨ鹿角御巷あり以上
皆那珂村ヨ隣りて相去ること七里也地なり鹿角郷
ヨ号ス

又高久村ヨ鹿角宮あり後堀川院の御宇征夷大
將軍藤原頼経卿悪来ヨ征伐の為関東下向
の時此社ヨ祈願ヨ為霊験ヨ蒙りしヨで今社内
悪来ヨ真ヨ像あり又社前ヨ祇又神二躰ヨり最
古像ヨして今ハ朽果僅ヨ殘ヨ存ヨ而已ヨり傍

小一小社あり陽石ヨ祭祀ヨ也又ヨり悪来ヨ西征ヨ
なり土人是ヨあぶりまヨ云伝ヨ云
天正の頃佐竹行義の六男ヨ馬淵小三郎景義なる
ヨの高久氏ヨつく蓋此地ヨ食邑セしヨや
野口村ヨ佐伯社あり佐伯ハ播磨讃岐伊豫安芸阿波凡
五ヶ國の社なり是大伴健男東夷ヨ平げ給ふヨ夷属ヨ
右五ヶ國ヨ居しむ即此ヨ佐伯部ヨつくサイキトハ乞人ヨ書花
喧嘩ヨ其拳サワカシキトハ新言ヨり今邦訛ヨ阿
波の郷あり又阿波山上の神社あり因て掬ヨ佐伯部

八阪國ちゝゝゝとも其先東夷の族より出ぶ此地其
枝葉存在し此の郷中より祭るなり又土人の說より此村
昔密寺ありて浄朱印八十餘石とて僧宮海開基
なりて宮海を佐伯部の支流なり故より此土を祭る
ゝとも云又泉福寺とゝ曹洞宗あり余此寺ふ遊ひく
富家関澤氏を訪ふ主人書画を好て近時諸名碩の
書画若干を珍蔵せり又浄前山とて古松の繁茂る
山あり是の山松葉とを煮て香味景美なる新ず又
大澤氏あり昔時佐竹氏ふ仕るず今ゝ相ふ大舘

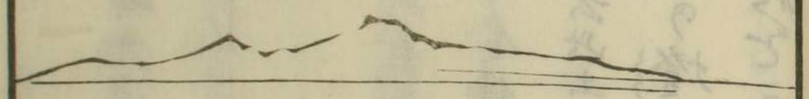
小同族を存せ新ゝゝ
小田野是村ゝ八幡宮あり社前ふ松の大樹あり土俗
相傳ふ三浦大介紀州ゝり移し植ゝ大さ數十圍ふ
して中間檜の宿り未あり亘り尺餘神宮と高
信氏ゝ云又蘇福寺ゝふ密院あり三浦氏の墳
墓あり三浦家没落し此村中ゝ住りとて其支
流を今ゝ存在せるゝゝ云三浦氏の遺像及太刀を
ちゝし村長川勾氏ふ書を著しゝ友人なりしゝ
身の薄倖を歎て遺学し今所在を知ら今

学に能とゝ及ひて学ふ懐奮発情を深しは
郡珂郡ふ八新郷あり又河内郡久慈郡ま居
皆河内を夜太郡と訓も即矢田部なるへし按ふ
景行天皇五十六年秋八月沼沼別を日汝父彦
狭島を不得向任所而早薨故汝妻欲東國是ハ
市諸別を承天皇命旦欲威父業則治之早得善政
云ふ由是其子孫於今有東國云ふ姓氏録池田朝臣
佐味朝臣大野朝臣韓矢田部造等是ふり今村名
或姓諸国ふ矢田部あるも是の枝葉なる歟

信太郡ふ大野あり郡珂郡又久慈郡まもあり此村文
化中より上下両村と分れ此大野ハ皇孫まして東國を
ちらす是ハ今ふ其村名残りしるし是
村ふ十二所神あり天神七代地神五代と合せて十二
神と祭れるとて大野氏神の御祖を祭るへしなる
一此郷の齋藤氏医術ふ委し博学強記近世の名
士なり偏く諸国ふ遊歴して余ふ舊知已より文政
乙酉夏六月医を以て擢て地郡廳ふ附属せり本姓
橘岡氏にして高茂氏ふ出て即大窪行天民の

峻山孤直於千尋樹
留言字而已[illegible]色未
白雲沒數雲去[illegible]

日自笠擔的自沒蓑
秋時[illegible]風吹來[illegible]
水陸[illegible]生[illegible]
[illegible]地[illegible]
[illegible]弱[illegible] 低[illegible]
[illegible]



弟なり

久慈郡小池田村あり其他池田と称する地名諸国に往く多くあり姓氏録に見えたる小池田の朝臣の古蹟なるべし

久慈郡八更なり野州武毛郡なく皆七月盂蘭盆に土俗男女老少お混じて念仏或ハ真言を唱へ晝夜踊躍す是を百姓念仏と云此土風俗の比すり妙なるもの知るべし然る此即京都の燈籠踊なるべし洛北長谷岩倉花園なくさめ花をこのより巧をつくして新四角なる新灯籠を頭に戴きて日夜踊りなるべし民神ずり踊り始て其年みすのりくるあるべし家に行て夜更すでなりあり き男子ハ大鼓をお笛を吹き踊を勧むるなり是百姓念仏なるべしのなり

煙草ハ蔦草なるべし武毛郡大山田村最上品なり武毛郡八更なり那珂郡久慈郡お比屋皆蔦草を植此を大山田煙草と称せり近時いよいよ盛んなり今ハ黒羽大田原喜連川烏山お諸藩皆大山田と称して江戸に交易す其産莫大なるものなり又大田

郷ハ赤土利負ホの名産あり此蔦草近世蕃産ル
ものなれども今海内ホり〳〵賞翫せり今北狄の諸
夷モ賞セざれども環海異聞ホすモ見西此蔦草あ
夷ヨ之〳〵〳〵ぶつして奇珍ヲなすり廣くセ
今の事蹟を推して其時世の風を知る屋
久慈郡大田郷あり是の大田の称呼今諸國往〻最
多〻拔ホ景行天皇冬十月到碩田國其地形廣大
旦曇因名碩田也豊前國京都より今村名或坪名なり大の字
又ハ多の字あるも其土平遠或ハ廣大なる地ヲ云今ハ

自然〻〻〻〻〻〻土地の廣狹ものもたホ〻〻〻平
廣の地ハ皆大の字を用ひ来れり大の字多の字の村
名拔挙ヨ遑あらず
景行天皇五十七年冬十月令諸國興田部屯倉ヲト云
田戸の部曲ヨ倉を造〻〻〻め私穀を貯て凶年飢歳の
備ヒとも為なり今村名地名ヨ倉の字を多く用ひ来る
り蓋〻昔時屯倉の設あり〻〻地ヨ河内郡ヨ完倉
あり邪珂郡ホ長倉あり木野倉あり久慈郡ホ高
倉蘆野倉ホの称呼あり其地〻〻拔挙ヨいとまあらず

総して地名郷名姓名普く其遺跡詳なるなり
凡稗は倉庫に貯て積年不損四年飢歳の備最も要
なるものなり今御邦内諸所に倉庫を御設あり
近世いよいよ御恤ありて今富積数十万石に及べり
老農天幸にして此数年平の御世に生れ暖衣
飽食而已なるに仁政を見聞せざるもあり
ときなるにや
長倉村に在きにより稗倉御設あり是上古屯倉の
意なるかなと豆村名倉の字もありて屯倉の遺跡
自然と暗合せるにや此村に養泉寺と云曹洞宗あり
明僧心越の題せる詩あり其作清新にして異
朝の人題名せるも又称すべし村長泉伊高見性居士
弟一常に参禅しく忠孝なく齢九十六歳に
て甲申の秋下世せり存命中
上より屢褒賞を蒙る長子伊兵衛廣中と云又時勢を
勤郷中に名あり見性翁は余に叔父にして長子伊兵衛
余に益友なりしかも今は既に世を去り双泉氏其先佐竹
氏の忠臣にして其祖某なる者の殉死せり佐竹侯

ゞり龜の紋を賜りて今ゝ家の紋とせり見性居士
始貧ゝして家産蕩盡し持来る所の具足刀劒き
て沽却せり存命中嘗て世子に余に告て毎く欲息
せり因族あり醫を業とし因幡に住めり相州大
舘ゝに因族ありて泉隼人家茂と云近き比伊達の
嫡婚利達卿に対よりて家茂ゝ對面せり家茂の
住ひ新街と今小長倉街と称せるとて泉利達飛
歌ゝ名あり美曲と弾ゝ
國長村ゝ月桂亭玄秀醫を業とし景ゝ眼科に長せり

久の意郡と古ハ久自ゝ之り郡の南に丘ありて其形鯨
魚る似り日本武尊の名ほけるゝ故なり此郡常
陸の奥郡と称せり東鑑に佐竹氏の領せ所ゝ是り
久の意郡の郷名に岡田と云る地是り今其所在と
知れ又那珂郡ゝも岡田の名あり掬に今開田の村名
あり開田を古昔ハ岡田と之しとて文字の似る所
轉訛して今ハ開田と云ゝ是り蓋し岡田を開田に
や文字の似る故に誤しゝやあらん開田昔時ハ大郷な
りしに今ハ上金沢村と云るゝなり又開田村に接して

佐賀村在り此村ふ立岩と云地名あり此立岩ハ開田村ふ属
し左賀村の界なり一説の石なり 屹立数丈故ふ名付
るゝ是の立岩の地名昔時ハ開田村ふ属せるなるべし
此開田村ふ邑長吉成氏あり吉成氏ハ結城氏なりと偏
と除きて吉成氏と名乗るなり云武名の家なり一説ふ
糸井氏なりとも云り又十二天の社あり是も上世乃
神祇を祭祀せる屋し此の神乃御在ゑを古館と
呼り昔時柵と称し又砦と称し或ハ要害なり之
て其郷中要害の地を見立て国司の族豪其屋ふ住

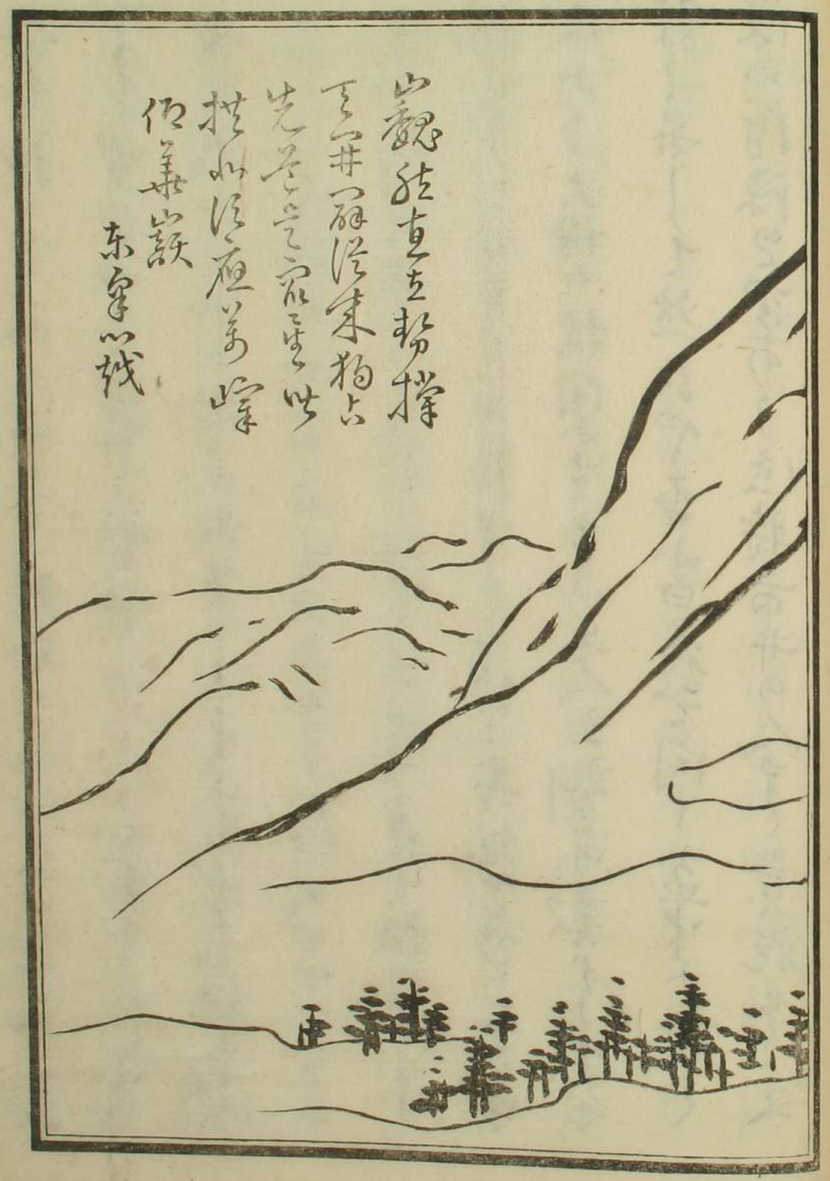
居し他国より不虞の入寇防禦の備とし是武者或ハ
剛盗等の浪藉を鎮護せしと云是の地を館と称せり
今館と称する地あり今此の古館も神社なりて年
毎ふ流鏑の祭ふあり乗馬あるふなる屋し上古
邈遠して紀載なし甚詳なるふ考ふ屋うと氏
余ふ郷里大なる村なり十二所の神社あり何れも古名弘
る屋し文治年中源頼朝磨屋の社を敬しまゝ
ふ他社ふ異なして毎月の神膳料として数百十石を
東国奥郡より納しむる事見へり因て按ふ大なる村ふ

鹿島宮三箇處あり蓋し常陸の奥郡なれば是乃
地なり又社料ハ屬せし事なれ此の三社もいつの頃か
ら破壞し今ハ名而已を存せり鹿島の馬場鹿島の森
鹿島平ハあり余ら少時まて八鹿島の馬場ハ松樹なり
茂りて又小池あり天女の小祠ありて朝夕の往来も未
下閑なりしら今ハハけしく松樹も枯果なり世の阿
まさまこのくまて須臾の間ハ遷移せり況や数千歳
を経る事をや人世かく浅ましく浮虛の朝ハまして夕
をを知るべしこれ只是文章の一事不朽なる

ものなり有志の士先ば古今の書を讀て大業を謀る
所し富貴利達ら草上の一滴露なり何んを汲く
もして白日をむなしくせん

八溝山今ハ久慈郡ハあり北ハ陸奥國白川郡を屬し西
下野國那須郡を接し東南ハ皆常陸の地なりて久
慈郡なり山中洞穴多し古黄金を掘りしかなり
仁明天皇嘉和三年春乙丑詔して陸奥國白河郡
の國司八溝山黄金神を祈りて沙金を採り貢て遣
唐使の資を助くと　當時遣唐使大使藤原常嗣副使小野篁也　山上の祝部

八濤山


山觀拔直立勢撑
玉井蓮從來物占
先天地之靈生此
拔山從庭等峻
仙人兼嶽
東皇山城

黄金神より今ふ山上より清冷の泉湧出せりと金生水
とも黄金水とも之より此山常陸中の大山にして景色
古名蹟多し此土風尾松多くして殊ふ木色純白潤
光ありて海内之此の名産なるよし一種又サヤハメト云
末あり水中に在て燃ること炬火の如し
風ものこりとして孫金も屋一其他ヤシヤビシヤクト呼
末あり大樹の枝間ふ生せり土人云鷲の糞より生せ
ばこ果して然るや否ふ白花を開く盆中ふ植て
深山清涼の家あり近時市井の人まく賞翫せり又

石楠花あり楊梅最多し春は諸谷林間ふ嘩殊ふ梅
櫻多くして多く其他奇草珍花枚挙に暇なし
山水の清奇出塵離俗神仙の境と云屋一山上又大
悲閣あり坂東順礼の一なり日輪寺月輪寺と云両院
あり修験住せり此祖八楠家の同族にして和田氏な
りしと楠正成の書あり其真贋八余ふ於く知られ
ず何れ古墨蹟ふして紙なく近世のものなるべし
いつの頃より光薙院孫薙院と云て別當となりし
と今山上ふ二院あり山下ふ一院あり合せて三別

當ゝ云上郷村勝蔵院八溝山ゝ分れて隠居地なりしゝ今古文書八世住ゝ有り御朱印拝ル場
ゝ此り此山八溝山ゝ名はるゝ四ゝ八方ゝ溪水流出し
て西八那珂河ゝ入り東ゝ久慈河ゝ入る就中久慈河
水源ゝ八溝の山北山南数ヶ所より出る故ゝ八溝山ゝ云
又元ゝ山下上野宮上郷中郷町分ゝの四ヶ村ゝ苔村
八黒澤ゝ云しゝ近世ゝ黒澤ゝ呼り此八
溝山ゝ妖鬼ありて常ゝ陰雲晦冥林麓ゝ雲霧
濛ゝとして黒暗なりしゝ四ゝ黒沢ゝ呼ゝなり
土人因て此黒沢ゝ奥ゝ暗ゝゝ云しゝ

此妖鬼ゝ近津神退治しゝ滅しゝ今ゝ近津宮ゝ
神霊ゝなりて爪牙ゝ存せり又一説ゝ蛇
蟄蔵して人民ゝ残害せり須孫拵守某八溝山の
奥笹ゝ岳ゝ平治せしゝ那須記ゝ今上野宮村
ゝ洞穴ありて蛇穴ゝ呼称あり是毒蛇の蟄せる
ゝなりしゝ上諸説何れゝ是なるゝを
知ゝ又ゝ此の近ゝ郷里ゝ猟ゝ好む
於男ありて笹ゝ岳ゝ今高笹山ゝ分ゝ
間ゝ洞あり古剣一口ゝ拾得り此男剣ゝ得て怪ゝ出ゝ

劔神の御ことひく他日神の処々今も恐ろしとて今
家寶院と云修験の家に收め世家秘蔵せり毎年
此劔を見るに何れ上世の物なれ共
久慈郡北郡と依上保内の郷と云て昔時八廿四ヶ村と
しら今も四十二ヶ村となれり塙村に寄の上の神あり
今寄の上の古名世に存せる而已なり佐竹興義の二
男依上三郎家義なるもの是より蓋し此地昔時
依上氏の領邑せしもや土俗に大子と大屋と同村と
なして今八郷村となる又上澤と高岡と同村なりし

と云て下八谷田中西冥賀と同村なるべし八谷四八
谷端と共に下野宮近津社保内郷の総
鎮守なして世四ヶ村へ年両度神輿出御し大祭
禮あり往古の意例なるて世四ヶ村に出御し来れり
今と昔とは違ひを知るべし
久慈郡の古き郷名に佐野と云る是なり蓋し
今の佐貫村もや又真野あり是し今槙野地村
あり此の地もや佐貫槙野地と比系せる地なり
佐貫の村長町爲氏あり富家なり又吉成氏

何り壓と業と〻其術ハ番〻名家なり
此村下野國那須郡の界まて八溝山の直下なり
那須記ハ佐貫某なる所とその見西是の地名と名
字を記せるなり
叔の字を見へ来りし所續日本記又和名抄ハまた見へ
て同文通考ハ和俗製作の字とせるハ誤なり續字
彙補ハ出るを少り上古の粗税ハ稲と束て納しハ
なり畝反の廣狹土地の肥瘠ありて其地〻ハ等差
あり稲何束納るなり當時定れる法制あり〻〻

見西今久慈郡部垂村より山方邊まて土俗富の廣狹
何反何畝歩と〻〻を彼ら幾束此ら幾束なと以
り束ちツカヌルト云字義〻〻てみ〻の間と束間〻ふ
土俗の方言上古の遺風なるを知る庵〻
成務天皇五年秋九月令諸國以國郡立造長縣邑置
稲置云〻國造縣主ハ神武天皇より始れり此の時ハ
到て大小國縣と分ち國造縣主を定て置〻と見へ
て今久慈郡ハ稲木村あり上古の稲置と置〻地
なりや又尾張ハ田子之稲置乳近之稲置なと見へ

國司の配下ふ稲置あて稲の租稅を收斂せ[illegible]
屋一因て稲置とそしるも稲未村を大田郷ふ此
を置て地方平廣と雖稲置を置一なる屋一天正
年中佐竹義秀義の六男義清の舍邑せ一地なり
久慈河其源と五あり一八陸奥國白河郡棚倉城の西
南八溝山陰より出一八陸奥菱多郡より出一八八溝山下
より出一八西金砂山より出て中野村ふいたりて久慈河
と入るとなる又八上河合村より合ると云一八多珂郡里
川村より出南行數十里ふして高合村ふ至て久慈河ふ

合東流一河ふ入るとなる菱ふ詠久慈川歌あり
くゝ川八さゝ[illegible]ありまて志ゆふまちちゆき
ゆ八ひとりこん
近時地名笑ふ虞氏水ふ作て奇を好ふ似り出河鮎を
産せり那珂河及諸所ふ出つるとなる久慈河を
以て最とす鮎物産家鰹とせり又紀月魚とも
云香魚或八金口魚とも一般名あるとも雄を年魚と云
屋一日本書紀ふ見て古名なり
深山清冷の水ふやてべとりふ魚あり漢名未詳古人齋

山吹色ハ山吹の花ハ
ことなり井出の玉川なり
来ふり美園まる之碗喜
水と美名ハ水色ハ
既よ賞玩せるすくなり今
う郷里久慈川此色ニ
籠ものあまり所り聊
拙作を録せり

漁郎夜擁蘋蕪短棹輕舟
水巷家潮聲卒一聲天始曙半篙

新濃排棠花

洗心山人題

孫生云往時此魚を唐山の人見て華郎魚なりと
いひしとぞ此魚ら味を美まして珍饈魚なり
光仁天皇寶龜元年七月戊寅常陸國那珂郡
より白烏を獲て献せるあり又同じく四年九月
丁亥朔を献せるとて近世此の白烏稀ふ見る事あり
色白を少しく赤色を帶る其かたち常乃
烏ふ似たれ共大きさ八百匹なるもあるもまれ
略鷹ふ類を新かに里の新拙ふ是烏の別種なるべし
八溝山下黒澤郷町村ふ佐竹氏の屬臺岩牧渡河

なるもの食邑也しかして館もあるしかして萩あり
又大壹川なる壹時戦爭の場なる白川氏佐竹氏屬
雄を爭発しかし口碑ふ存せり慈恵寺と云寺
寺大院なして末流九十餘箇寺あり雪村の畫る
屏風一雙あり其他古人墨蹟多し近津の宮
あり中野宮と唱ふ又筑波神の社 祠官業地氏の
屋敷ふ在り景色古くして迫あり云近は宮の
祝部 村長を飯村氏と云ふその先下野國芳賀郡
飯村ふ食邑しかして字津宮氏の族業なして武功の名

あり其末裔名孫字士德好學善詩予う莫逆の友なり
鄙に三餘堂又鄙に岳麓
魴東海及那珂河久慈河皆多く其那珂河より出るもの
最美なり毎歳秋時那珂湊にて此魚を網し
公家に奉る此の魚魴と又鰒とを何れも浜花なる
なり魴の字小常れりとて本朝食鑑小見論なり
久慈郡小古志萬と云郷名あり今の富村なる歟也今
も川島小富等の数村あり
又久米と云地あり乃今の久米村にして天正年中佐竹

義治の三男三郎義武久米村小食邑し久米氏と云号小
久米古事紀傳建命平國廻行之時久米直祖小七拳
脛為膳夫小從ト云く又書紀大伴武日連令從日本武尊小
小七掬脛為膳夫ト云く日本武尊東國を征しうひし時の
從臣なれば彼の水裔東國に村をなし也其古名今小
殘れるなる歟也

又河内郷あり今の上宮河内下宮河内村なる歟也此村
金砂山日吉神社の樫麿なれば宮の字を添しなる歟也
郷名村名なく此等の例まくある事なり

又山田あり今の山田村なり豆温泉ありて能腰痛
脚氣の諸症を治せり近時人漸く知れり
又弓矢あり今孔瀬谷村なる新屋一名廣爲の社領な
れど東鑑に見えたり
又佐竹郷あり即天神林村なりて上古の神祇を祭れり
社あり佐竹氏此地に興り太田城に居城して遂に常陸州
奥七郡を領し漸く盛大なるに及ぶ此の天神林八
太田に接属せる地なりて佐竹氏の創立せし佐竹寺有
り坂東順禮の勝地なりて一大名刹なり又木崎の郷

名を即今の末崎なりて大田に接し昔時大田城の外郭
なり
書紀に千熊長彦として新羅を使せしむ見えたり
千熊長彦八武蔵國の人なりて今の額田部掬東首等
の始祖なりと云り此の額田部八神代上記に天津彦
根の命なりて茨城國造額田部の連等の遠祖な
りとて舊事記に輕爲豊明天皇應神の世に天津彦根なり
命孫筑紫刀禰立爲茨城國造下云ふ即是なり今八額田
村を郡の郡に属し額田八地方平遠旦又本國の大郷

ホして今其形勝を考るに依然たる古名殆すて國造
と云る地に類し屬うさるにもなり或人の云額田八額
聚抄に河内國河内郡に沼加多見とり沼ある地なり
とふ金云常陸國新田郡に大なる沼あり沼あるに
地也國に称呼なる屬に茨城の國造河内國に在るべ
きいまなり抽に今詩國大津と称する地名多に皆
舟船の會集する地なり舟船の輻輳する地ふかぎりふも
河に人馬の輻輳する地なるも皆大津なり呼来とり
此國名河内也なり

下野國武毛郡八十八ヶ村なり那須郡に接連する地なる
八溝山の西南に當れり其土沃壤野村隨一の境なり
古より戎爭なるまゝ由形須記に委今此に略す
武部又馬頭村にあり此村に馬頭院と云寺あり寺
紀栗河に植栗樹栽義せり土人云此樹他処に移し植
て培生せしと云り是院に長俊と云碩学の僧あり
鄙に云幻子と云て諸所に遊歴し京師の諸名刹論住
せり後此院に住しつゝ幾ばくなく遷化せり余往
年云幻子の舊居に題して脫部人間夢幻生心蕭

大法身清嘯風撫馬風馳走伴月山雲月送迎香爐
殘燼逼去點燈營新墨未乾情門庭不掃客箒疎
一脉筒泉滴冷聲又乾徳寺と云曹洞宗あり是境
内風尾松多し風尾蕚と云て産せり此蕚少し此辺
里ふ和尺村あり石窟所あり相傳ふ弓削道鏡の潛隱
地し空ゝとて此村水精沙を出せり潔白解脫すして
分量摩上の珠なり又小口村あり温泉所あり よく痾癰
を治せりと云
武部村ふ健武神社所あり按ふ健武ハ建部なるべし

珠しき古石なり蓋し建部ハ日本建命ふ屬從ける部類
と云ふなり風しき書記云因欲錄功名即定武部又出雲
國風土記云出雲郡健部郷古曰字夜里所以改建部經
向檜代宮御宇天皇勅不忘朕子倭建命之名因定建
部爾時神門臣古弥定賜健部即健部臣等自古至今
猶居此處故曰健部又類聚抄云伊勢國安濃郡建部
太介無倍美濃國石津郡建部備前國津高郡健
部云ゝ又書記初日本武尊娶両道入姫皇女為妃生稲
依別王次足仲彦天皇次布忍入姫命次稚武王其兄

稲依別王是犬上君（近江國犬上郡）武部君凡二族之始祖也又次妃
穂積氏忍山宿禰（スクネ）称之弟橘媛（オトタチバナヒメ）生雅武彦王又舊事紀雅
武彦王命尾津君揮田（ワキタ）君武部君等祖ト云ハ上の說と拙
き事ハ日本武尊東夷を征しまひ給ふ橘媛を東海ハ
うんざりまひしゝで今吾嬬の名を存せりこゝ彼此の
えきを所て何地東國の古名歟ハ事を聊を疑
ふ所ハ

又天正十八年太田五郎左衛門下野國茂毛城ハ射せ給ふ
ゝ此大田道灌の後まて小田城ハ

栄移さ給ふ此武毛城ハ何地の地ゝ又大山田刑部
ゝ事を の往〳〵見大山田ゝ毋考を屋〳〵
邢須郡ハ須佐木須賀川両村あり此山奥ハ海山ゝ
掃續ゝ事地ゝて幽絶の境あり雲巖寺と云西河
禪あり又東山ゝ也ゝて寺領若干あり名誉の
唐僧住職ゝ寺ゝ境四五町三井十景勝あり
其景ゝ事ゝの花童ゝ水ハ石玲瓏巖ゝ佛
殿を獅子王殿と云額ハ震翰（シンカン）なりとて又山門ハ祢光
不昧ゝ扁ゝり何人の筆ゝゝ寺後ハ草庵あり

仲須禅師習静の地なりと云他流の祖と敬義の
住て 唱本寺を庵と破しに反本立 しらふを
残せり又仲方信と云る極るす四五月の際仲方信と
鳴〳〵と云余往時迄ありて 郡廟の命を奉
世寺小使して三三日逗滞せり我が邦家法制厳格小
して云事を言へ〳〵私小遊覧せ彩を悼られて其
膝迄を詳よせて古文書是を堂跡を多〳〵少堂
上金堂八下野と常陸の界にして堺の神と云小祠
あり村長塚田氏と云ふ三世の直家にて莫逆の友り

嗜武是画を好て篤厚の人なり世村小願入寺と云浮土
真宗あり第二祖如信上人の墳墓あり其の上垣表墓上
銀杏の大樹あり枝葉繁茂して蒼翠山の如し一主の跡
なり又禅院あり月照山と云長松寺と云て数
里の間小見西幽栖の勝境なり隣里女倉山又古館小皆古
〳〵要害の地にして戦争の地なり〳〵少如土俗の碑
而已にて紀載なし再考して後篇に録を庵〳〵
相川村あり此郷近時湘江先生服南郭氏の門小遊ひ
て有名の士なり安達文仲なる新とのを出門小出猶子

野内助三郎月居齋と號し画を好て一奇の人なりこの
翁余が曾祖父休也と知交なり又鶴川氏あり岡田村十
二天社内の碑記すもこれなり
余江戸に漂泊し一日長者巷に逝て山崎氏に邂逅せり
主人古瑟琶の揭本を所蔵せり いと珍しき物なり乞
得て写模し出せり 土人傳ていへり那須与一の瑟琶と
いへり按ずるに那須記云那須太郎資隆初娶小山氏女
生男子十一人所謂太郎光隆云々与一宗隆等なり然
るに此瑟琶に彫刻せる所とこの与一宗隆の名なり

なるべし源平盛衰記与一射扇の條に折節西風吹来
て船ハ艫舳も動キツヽ扇杭ニモタマラヌ子ハクルリ〳〵ト廻り
何レノ所ヲ射ヘシ共覚ス与一運ノ極ト悲クテ眼シラサキ心ヲ
静メテ歸命頂礼八幡大菩薩云々那須大明神弓矢
ノ冥加有ルヘクハ扇ヲ坐席ニ定メテ給ヘト祈念タルトアリ
此役ハ元暦二年二月なりなれハ即宗隆を父の仰き
給ふ氏神なるにハいと祈誓をこめて学ふいちじるし
き勲功をもなすとて与一ヶ名号ありなれハ土人さハ
云へこれなる歟

下野那須郡温泉神社所傳
那須家琵琶撥本

下野ハ上古下毛野と云又下菟毛と云こゝに原形須
野原なり其土廣野にして平遠なれとも
きの〳〵夫の矢なみつくろふ小ものゝうくふあゝ此こそ
〳〵那須の篠原

右大將實朝

藤原實方

このくとふえやハうふきあれきしをもとり
〳〵なとをあれはとひと

契仲勝地吐懷編及秀栄今按名蹟考皆下野國と

せり今の学江の伊吹山とも新井白石誤り
なりとて
那珂郡鳥子村に鳥子山あり山半武毛郡に掛せり
鳥子神社あり此山峻高にして下野州を臨眺し
春霞秋霧四時の美観愛しつべし其土状本国
しく勝地とつべし
又松倉山あり鳥子山の西南にして眺望最よろしく
其景勝鳥子山に相低昂せり山に大悲院と号す東
西両別当とて草庵あり西別当ふ近時俗の実家な
ればその住あり此の俗相馬家の臣にして道
世に甚平生世塵を脱落し唯山水に遊して詩を賦
し歌を咏して思を遣る而已又業務の喚人に笑し
て能く我を談し岳を論せ所謂豪気未除とも
う又甚才学を愛し大院に住職せしめんとせし
とも敢て肯んせず麻衣草鞋食を村間に乞
て道を修錬せしう弱ふ病て野州高根澤の郷に遁
せりとぞ云
土俗乞食をホイトと云或書ふ江戸にて曜斎をもち坊

ふハチトハホイトフ　ふらぬ　ハトホと通　チトトと
通ぜとふ異なの説皆國学者の論ふして毎こと
ものなり学るふ乞兒を乞食なり今駈してこゞきと
フコジキホイト皆佛家の言ゝして乞食　陪堂なり
陪堂トハ飯米ゝまとゝ乞る僧をいふなり佛門の教三
衣一鉢樹下石上一処不住ゝして決宅を厭離ー悭貪
瘡の三毒を消滅せり最も殊勝なる修行ゝして
容易なるこゝなる事なり又乞食をとるあるいふ
ものゝまて五躰不具なるを云こ此業を勤るとかなる

も乞食せるなり僧家の乞食ハ修行ゝしてゝ
異なり
行方郡小板来村あり今潮来とゝフ國学者云潮
来ハ朝来なり朝来の反切イタコなりゝ朝来ハ和名
抄小板来と見る（今本作板ハ誤なり）風土記ゝも板来と云板
来の古名此明らなる事を彼此の反切を論せる蛇足
なる事をものなり
國郡古今の沿革轉遷定ゝ所ゝして其詳なるを
得て知る屋のふ所真壁郡の郷名小伴部あり伴

部と友部として西那珂郡ふるとゝ云又多珂郡
ゝと友部あり又陸奥國ふ行方郡あり又那珂
郡よ芳賀の郷名見西芳賀ハ下野國の郡名とり
又多珂郡よ高野郷あり高野ハ中世今の白河郡
と高野郡とゝいひしあるとのえすまゝ今
白河郡ふ高野村あり又茨城郡ふ白河の郷名も
又助川郷ハ多珂郡よあり然るふ久慈郡ふ属せり
今彼此の地名點檢し古今遷移の来歴を考るふ
各皆因て来れるものあり今余ら臆載とせふ存して

以て識者の考定を請

真壁郡珂多珂三郡伴部の称あるを按ふ敏部と義
日ゝ(此日)大伴連の遠祖なるべし書記ゝ出又
般磨六雁の功と美しるひて膳大伴部を賜とも
いとり此上彼此大伴氏の東國を領し来れること明な
り今伴部ゝいふ彼ら大伴氏の部属此等の地ふ
食邑せしなる歟歟し
行方郡ハ鹿嶋の社領なるべし又陸奥ゝも行方郡あり按
ゝ鹿島大神の苟齋三十餘社陸奥ふ在るふ延暦

古木森天白日攢性庭森
地茶園蒙蒙仙杓蒼蒼困繞
晚煙霧掃西峯如碧嶺蒼
繞抱危崖要天風颯颯吹袂
陟遠瓶直入銀河水鳴峰高
并秀之樓高為源發學之流
增生會之秀白石之生之如
名山之仙之一授丹之神靈
山靈之自源秘京高探之好
沿南深之秀土人去能泥峻
低天八才一石

洗心亭

霞屋樵者 稿

年中太神の封物を割きて彼の諸社に奉る事是なり
廉宮太神の御在所は行方郡に摘屬を所地すれば上古
は廣宮の社領に新屋一彼の社領を陸奥の廣宮廣宮
割分てる由に不行方と称せり又陸奥の廣宮宮
いまだ地を本國廣崎の御苗裔なれば其風土を行方に
似たれば御在家なり行方を繁称し来れるなり
郡郡郡に芳賀の郷あり按ふに久慈郡大子村に芳賀河
内守の古城あり芳賀は下野芳賀なり昔時宇都野宮
氏武名盛んなりて東國を壓せり其後常陸をも領

せり是西会津の郷中益子氏飯村氏芳賀氏なり皆
其先宇都野宮氏の屬業なり何れも下野の地名を姓
とす宇都野宮氏廢せり所領を失ひ遂に此地に蟄
居せり余が家も宇都野宮同族なり後鳥
羽院御宇筑前國麻生郷に黒崎の地を賜りて帆
柱山に在城せり其地より後宇多院御宇建治弘安
年中異賊防御の役に戎功ありて又本國野州芳賀
郡祖母井を領せり因て祖母井を氏とせり又黒崎
をも名字地とせり後大子に来るも芳賀氏なり

なり多珂郡宮田村に板宮大雄院と云曹洞宗の
大刹あり此地景色幽勝にして板樹蔽天奇古不可
言相伯小野崎の氏開基なり小野崎氏も宇都
野宮氏の族黨なりしと云院名既多く再考を俟
中世宇都野宮氏盛大にして常陸國東編の地は
もと其族黨繁衍せしと見えたり今芳賀の郷名
諸家に散在せる由なり
多珂郡の中に高野郷あり陸奥の白河郡もも
高野郷あり按ずるに昔時白河郡と高野郡と

もに白河氏北郡を略し佐竹氏私に高野界
を廣めしなりと其後石城氏盛大にして東八多
珂郡石野坂を界とし来り西北久慈郡北郡をも
并せり其後私に地を割きて石城に与ずり
佐竹氏勢ひ漸く盛大にして東八多珂郡北高野
郡の界八溝山より以南久慈郡を不殘領せり此時
及んで地を割きしなり三家分るゝ時地を蚕
食せり故に郡界さまゝに沿革せり
多珂郡多珂八高也此土山峯嶺に岳空平にして布海

の表ふ接連せ絶ハすり
久慈郡ふ多珂郡の助川と出せ彩と又中世石城氏の石
那坂より山北久慈郡まて領せ〜注久慈郡ふ助川と屬
せ〜なる彩屋〜即多珂郡ふ高野郷と出せる〜一般
の称〜やく久慈郡〜助川郷〜ハ高鋒(たか)黒坂の諸山隔
絶(ぜつ)〜て其地方區別(べつ)せ是重〜て古今遷移地方沿革
せる事と會せ屋〜
今保内郷中益子氏ふ〜河り葉池氏最も多〜齊
藤氏又多〜藤田氏相次り益子氏ハ野州益子ふ在城〜

武名あり〜て山字都野宮豊なり前ふ述彩如く此郷
ふ移り来て彩なり葉地氏ハ九州ふ葉池没落〜其族
豊諸国ふ散在せ彩ものなり葉池氏の九州ふ盛大な
彩ふハ諸書ふ見て此ハ世ふ彩〜如齊藤氏ハ也と齊宮
ふ屬徒せ〜藤原氏ふて後諸國ふ散在せり又齊藤
別當實盛平氏ふ因て一方の巨族ふり拙ふ齊藤実盛の
始祖ハ藤原氏ふて後ふ平氏ふ當り〜又源氏ふも豊
せり實盛ふ壮ふて軍旅ふ勝(すぐ)せる汚名と蒙り旦ふて
源氏ふ寵(ひいき)ふ通せるふ〜老後ふ及び流(さと)石ふ武弁(べん)の名

と恥じまや家後の討死をやうふ其名今ふ人口ふ膾炙
せり今保内郷富為氏ハ熊野宮を尸祝せり平氏の
黨なる北ハ祖先より祭り来るなる新屋敷ハ藤田氏ハ下
野國烏山城より西北二里許なる為田村より藤田某
なるもの那須家の族黨なるより八隣里ふ高瀬村
ふ居る那須家の支流なりて今久野浦村ふ高瀬
氏あり余ら母黨なり那須家ハ諏訪宮又ハ幡宮を尊
崇せり乃チ久野浦村ふ諏訪宮を祭るハこの由なれ
どなり那須家ハ昔時那須武者所として尤盛大なる

ことなり宗隆ハ屬の的ふ名を得て頼朝の寵臣なりな
りて宇都野宮朝綱より賜ふ是時頼朝
の命ふよりて朝綱那須家の後見なりしなりて那須
家ハ宇都野宮家の紋なふ左り巴を用ひ是よりして宇
都野宮那須両家合一て同族の因を深くしたり
今保内の地ハ下野國ふ相接なる地なりて宇都野宮并
ふ那須家の族黨移り来る北新ハ新田一名今諏
訪宮多き由ハ其因て来る事あるなり
紫田村の瀑布其高さ四十有餘丈なりて東國中最第

一の勝景なり月居山下に在出石名月折とも書けり
若狭野内大膳なるもの居城なりしなり又温泉
あり本國中の名湯なり京師香川氏の一本堂茶選
まで見えて其名高しとも近時人知るもま
れなり就春院と禅寺あり摩頂松と云名樹あ
りしが今は枯れり出松偃蓋無陰所謂る頂を摩
西山黄門源光圀公名はけるなり近時まで一松樹と
植て其勝跡と次りし
湯遊記譚前篇終